



我等行く手の



令和5年度
8月号
利根商
進路だより

夏休みが終わり2学期が始まりました。立てた予定通りに夏休みの時間を有意義に過ごすことができましたか？
3年生は人生の分岐点となる大事な進路選択の本番がきます。就職希望者は入社試験や公務員試験が始まります。進学希望者は総合型選抜や学校推薦型選抜、大学入学共通テストが控えています。高3の夏で本気で打ち込んだ勢いのまま、受験勉強のラストスパートをかけていきましょう！

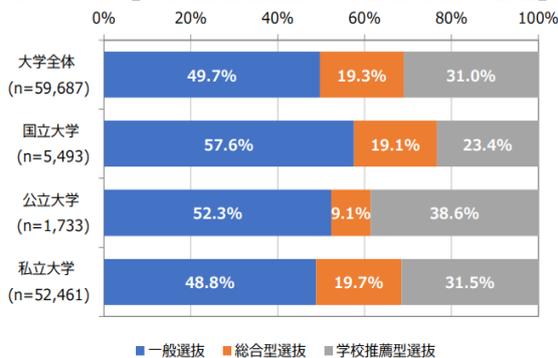
●学習合宿が行われました！

7月24日～28日に、みなかみ町にあるロッジ樹林様で学習合宿が行われました。10名の生徒が参加し、1日10時間以上、多い日は13時間以上の学習に取り組みました。この合宿の目的は、規則正しい生活をしながら自己の限界まで学習に挑戦し、集中力、計画性、受験に立ち向かう気力・体力を養うことでした。そのため、学校側から指示や課題等は一切出さず、生徒自身で内容や時間配分を考えながら行いました。合宿を通して、受動的にする学習だけではなく、自ら自分に必要な学力を付けようとする主体的に学習に向かう力を身に付けました。

今回の学習合宿が、参加者の進路実現につながることを期待します。協力していただいたロッジ樹林のみなさま、本当にありがとうございました。



●大学入試のいま【学校推薦型選抜・総合型選抜の増加】



近年、学校推薦型選抜・総合型選抜で大学入学した生徒の割合は年々増加しています。2000年代初めでは約40%程度だったのに対して、※2022年度入試では50.3%まで高まり、ついに一般選抜を初めて上回りました。この傾向は、国公立大学・私立大学とも同じであり、特に私立大学の増加が目立ちます。一般選抜での受験対策だけが必要ではなく、今後は学校推薦型選抜・総合型選抜を同時に意識した受験対策が定番になっていきそうです。

●一般選抜はもう時代遅れ？

上のデータから分かるように、学校推薦型選抜・総合型選抜で大学入学した生徒の割合が50.3%であり、最も多く利用された選抜方法となりました。相対的に一般選抜の価値が今までより下がりそうだといえます。しかし、データを絞った視点で読み解いていくと、違った結論が言えます。国立大学に絞ってみると、一般選抜の割合は57.6%であり、依然として最もメジャーな選抜方法です。また、首都圏の有名私立大学の早慶、MARCHの一般選抜の割合は6~7割と言われており、依然として高い水準です。

朝日新聞EduAの記事によると、明治大学の7割は一般選抜であり、将来的にはわかりませんが、入試区分の比率は現時点大きな変化はないとしています。また、立命館大学の一般選抜の割合は63%であり、「一般選抜の比率が高いのは、確かな基礎学力を備えたうえで、多様な学習歴を持つ人に来てほしいという大学側のメッセージでもあります」と伊坂忠夫副学長様が話しています。即ち、一般的に受験上位校といわれている大学を志望している場合、まだまだ一般選抜がメジャーだといえそうです。

●1, 2年生の内のできる事

一般選抜と学校推薦型選抜・総合型選抜を同時に意識した受験対策が必要です。一般選抜の受験対策は今まで通り、確かな基礎学力を身に付けるために、1, 2年で学習した知識を定着させましょう。学校推薦型選抜・総合型選抜の受験対策は語彙力を高める、社会に対してアンテナを持ちましょう。具体的には、日頃から「自分の考えを言語化する」、「社会課題に対する興味や関心を広くもつ」、「課題研究やみなかみ創生学の授業で高い関心を持って取り組む」などを意識してみましょう。

●当面の予定	9月4日	3年脱0テスト	9月8日	校内選考(専門学校)
	5日~7日	2年インターンシップ	9月9日	3年9月マーク模試
	6日	就職者社会人面接講座	9月13日	1年進路ガイダンス
		共通テスト説明会	9月15日	就職結団式、フィールドスタディ